

科目名	家族看護学基盤実習 Family Nursing Practice I
授業形態	実習
標準履修年次	1年次
実施学期・曜時限等	秋学期 集中
単位数	2単位
担当教員名	涌水 理恵 Wakimizu Rie 小澤 典子 Ozawa Noriko
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	
オフィスアワー等	オフィスアワーは特に定めないが事前にメール連絡をしてアポイントメントをとること 涌水 理恵 riwaki@md.tsukuba.ac.jp 小澤 典子 nozawa@md.tsukuba.ac.jp
授業の到達目標 (学習成果)	(1)専門看護師への随行をとおして家族支援専門看護師に求められる実践に対するイメージ形成ができ、説明することができる。 (2)専門看護師への随行をとおして家族支援専門看護師に求められる相談・調整に対するイメージ形成ができ、説明することができる。 (3)専門看護師の活動、得た学び、自己の学習課題をレポートにまとめることができる (4)健康障害を有する患者とその家族の健康障害について、家族看護実践学で立案した援助計画を実践することができる。 (5)計画実施終了時に、援助実践を振り返り、家族看護過程をまとめたレポート作成を行うことができる。
他の授業科目との関連	家族看護実践学、家族看護学展開実習
履修条件	専門看護師養成プログラム(家族看護)の受講者であること
授業概要	家族看護に関する専門的知識に基づき、家族看護支援専門看護師に求められる役割に対するイメージが形成でき、家族をアセスメントする能力と家族支援の実戦能力の基盤となる能力を家族看護過程の展開を通して習得する。専門的能力を有する看護師および大学教員の指導のもと「アーリー・エクスポージャー実習」を通して、専門看護師としてのイメージ形成を図る。また「初期体験実習」を通して、援助計画の立案・実施・評価の一連を経験する。
キーワード	専門看護師養成プログラム(家族看護)の受講者であること
授業計画	1～20(未定)(数事例への患者とその家族への支援を、専門的能力を有する看護師および大学教員の指導のもと、実施する)(涌水・小澤)
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	実習(30時間) 数事例への患者とその家族への支援を、専門的能力を有する看護師および大学教員の指導のもと、実施する。授業外ではレポートや計画についての書類の作成や修正はもちろんのこと、実習施設内外の家族看護に関する研修会や講習会に積極的に参加し、家族看護の知識を得るとともに人的交流を深めることが望まれる。
成績評価方法	到達目標の達成度を平常点として評価する。 到達目標を指導に従って大旨達成できればC以上と判断する。 到達目標を指導に従って大旨達成できていると判断されればB以上と判定する。 到達目標の1～4について優れていると判断され、5を行っているとは判断されればAと判定する。 到達目標の1～4について非常に優れていると判断され、積極的に5を行っているとは判断されればA+と判定する。 評価を実施するに当たり、実習指導者の評価を十分加味する。

教材・参考文献・配布資料等	<p>吉川悟:システムズアプローチのものの見方. ミネルヴァ書房, 1993.P22-56 石原邦雄:家族と生活ストレス. 放送大学教育振興会, 2000. P77-107 野末武義:家族ライフサイクルを活かす-臨床問題を家族システムの発達課題と危機から捉え直す. 精神療法, 2009.Vol35(1).P26-33 モニカ・マックゴードリック:ジェノグラムのはなし. 東京図書株式会社, 1988.P2-13,187-199</p>
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	<p>やむを得ず欠席する場合には事前に必ず申し出ること。やむを得ず欠席する場合には事前に必ず申し出ること。30分を過ぎた遅刻は欠</p>